外国語活動指導案

日　時　令和７年 11 月５日(水)
５校時　13:45～14:30
学校名
対　象　第４学年　組　名
会　場　英　語　ル　ー　ム
授業者

１　単元名

Unit 5　Do you have a pen?　*Let's Try! 2*（文部科学省）

２　単元の目標

身の回りの物の言い方や、ある物を持っているか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみながら、相手に伝わるように工夫して、クイズを出したり答えたりすることができる。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
身の回りの物の言い方や、ある物を持っているかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	相手に伝わるように工夫して、クイズを出したり答えたりし合っている。	相手に伝わるように工夫して、クイズを出したり答えたりしようとしている。

４　指導観

⑴ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）　第４章　外国語活動　第２　各言語の目標及び内容等　１　目標　⑵　話すこと[やり取り]

> ウ　サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

また、同２　内容〔第３学年及び第４学年〕〔知識及び技能〕　⑴　英語の特徴等に関する事項

> ア　言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。

及び、同２　内容〔思考力、判断力、表現力等〕　⑵　情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

> ィ　身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。

さらに、同２　内容　⑶　言語活動及び言語の働きに関する事項

> ①　言語活動に関する事項
> 　イ　話すこと［やり取り］
> 　　(ｲ)　自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動。
> ②　言語の働きに関する事項
> 　イ　言語の働きの例
> 　(ｱ) コミュニケーションを円滑にする
> 　　・ 相づちを打つ　など

を受けて、自分の作ったクイズを相手に配慮した工夫を取り入れて伝え合うという学習活動を設定することとした。

⑵　児童観

当学年の児童は、外国語活動にて、自分の好きなものや嫌いなもの、数に関わる内容、天気や曜日などについて言語活動を通して慣れ親しんできた。

本学級は外国語活動を担任が指導している。また、月に１回程度ＡＬＴが来校し、連携して授業を行っている。

本学級の児童は、第３学年から始まった外国語活動の学習を楽しみにしながら、意欲的に取り組んでいる。意味が分からなくても、どのような言葉か想像して英語を学習していく姿が見られる。一方、友達とのやり取りの活動では、友達の言葉に反応したり、相槌を打ったりすることはできるようになってきているものの、やり取りが一方通行になってしまう場面も見られる。相手意識をもち、場面にあったやり取りが進むよう、やり取りに活用できる常套表現を紹介しながら指導していく。

⑶　教材観

本単元は、身の回りの物の言い方や、Do you have ～.といった表現に慣れ親しみながら、相手に伝わるように工夫して、相手の持っているものを尋ねたり、自分が持っているものを答えたりする単元である。学級の友達のことをよりよく知るために、自分の My bag を作成し、その中身をクイズとして尋ね合う活動を単元末の活動とした。児童が「解いてみたい。」や「答えたい。」と思えるような仕掛けを用意し、Do you have ～?　I have ～. と発話できるような場面を作る。そのことが、単元末の活動において児童が相手に伝わるように工夫して、バッグの中身を尋ねたり答えたりすることにつながると考える。

「My bag クイズ」と称する言語活動を通した友達とのやり取りの中で、ただ一方的にクイズを出し合うのではなく、お互いに相手のことを意識しながら、友達の言葉に反応したり、相槌を打ったりすることで円滑なコミュニケーションを目指す。相手意識をもち、場面にあったやり取りをしていくためには、やり取りに活用できる常套表現を取り上げて指導していくことが必要である。例えば、“Well…” “Umm….” などの会話の間を埋める表現や“OK.”“Hint, please.” “No, sorry.”“That’s right.” “Bingo!”などの表現が考えられる。他にも、“Is this…？” “I don’t know.” といった表現も考えられる。常套表現を学習し、使い方を教えることは、会話の中で相手を不安にさせることなく、相手の気持ちを考えながら、お互いに気持ちよく会話を進めることにつながると考える。対話が一方通行にならず、持続性のあるやり取りができることを目指す。

【例】(My bag のイラストを見せながら)　※下線部は常套表現を示す。

児童 A: Hello.

児童 B: Hello.

児童 A: I have a ball. I have a video game.

What's this the last one? (答えが隠してある写真を見せながら)

児童 B: Umm. Do you have potato chips?

児童 A: No, I don't.

児童 B: Let me see…, Do you have cookies?

児童 A: No, I don't. It's fruits.

児童 B: Well…, a banana? (答えが分かった場合)

I don't know. Sorry. (答えが分からなかった場合)

児童 A: Bingo! That's right! It's a banana! (答えが正解だった場合)

No, sorry. It's an orange! (答えが違った場合)

児童 B: That's OK. It's an orange!

5　年間指導計画における位置付け

月	単元名	重点化領域
4	Unit 1　Hello, world!	話すこと［やり取り］
5	Unit 2　Let's play cards.	話すこと［やり取り］
6	Unit 3　I like Mondays.	聞くこと
7	Unit 4　What time is it?	話すこと［発表］
9	Unit 5　Do you have a pen? (本単元)	話すこと［やり取り］
10	Unit 6　Alphabet	聞くこと
11・12	Unit 7　What do you want?	話すこと［やり取り］
1・2	Unit 8　This is my favorite place.	話すこと［やり取り］
3	Unit 9　This is my day.	話すこと［発表］

6　単元の指導計画と評価計画(全４時間)

時	目標	学習内容　・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	教師による My bag の中身の紹介や、世界の子どもたちの映像から、身の回りの物の言い方に慣れ親しむ。	○　単元目標の理解 ・　教師の My bag 紹介を通して身の回りの物の言い方を知る。 ・　マイバックの中身の紹介に出てきた語彙を繰り返し練習する。	ア (行動観察)
第2時	go fish ゲームや借り物ゲームを通して、持っている物を尋ねる表現に慣れ親しむ。	○　持っている物を尋ねる表現 ・　カードを集めながら持っている物を尋ねる表現を練習する。 ○　常套表現の理解 ・　常套表現に触れ、借り物ゲームの中で練習する。	ア (行動観察)

第3時	相手に伝わるように常套表現を活用するなどして、数に着目しながら持ち物について伝え合う。	○ 鉛筆集め ・ 複数の表現に慣れ親しむ。 ・ 数に着目して鉛筆の数を伝え合う。 ○ My bag 中味決め ・ My bag クイズに向けて My bag の中身を決め、練習する。	ウ （行動観察）
第4時(本時)	相手に伝わるように、常套表現を活用するなどの工夫をしながら、My bag クイズを出したり答えたりすることができる。	○ My bag プレクイズ ・ My bag クイズのやり方を確かめる。 ○ 中間指導 ・ 常套表現を使用しながら双方向のやり取りができていたか振り返りを行う。 ○ My bag クイズ ・ 常套表現を使用して My bag クイズを出したり答えたりする。	ウ （行動観察） イ（行動観察、ワークシート）

7 指導に当たって

ア 相手意識をもち、場面に合わせた常套表現を考えながら使用できるような仕掛けを多く取り入れ、児童の「主体的な」学びを促進する。

イ 児童同士のやり取りを全体で共有したり、教師による中間指導を行ったりすることで、より良いやり取りを目指せるようにする。また、授業の最後に児童が学んだことを考えたり発表したりする振り返りを行うことで、学級全体での学びの交流を促し、「対話的な学び」を促進する。

ウ 自分のやり取りを更によくしていくために、やり取りを通して、場面に合わせた常套表現を理解し活用できるようにすることで、「深い学び」につなげる。

8 本時（全４時間中の第４時）

⑴ 本時の目標

相手に伝わるように、常套表現を活用するなどの工夫をしながら、My bag クイズを出したり答えたりすることができる。

⑵ 本時の展開

時間	○ 学習内容 ・ 学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 5分	○ Greetings ・ あいさつをする。 ・ Alphabet song を歌う。	・ 元気よく一緒に歌い、手遊びも取り入れることで、意欲的に学習に取り組めるようにする。	

展開 35分	○　Goal 会話の間に入れる表現を意識しながら、クイズを出したり答えたりしよう。 ○　My bag クイズ ・　My bag クイズのやり方を知る。 ・　回答者は写真を見ながら二つの持ち物を聞き、もう一つの持ち物を尋ねる。(下線部は常套表現を示す。) A: I have a ball. I have a video game. What's this the last one? B: Umm. Do you have potato chips? A: No, I don't. B: Let me see…, Do you have cookies? A: No, I don't. It's fruits. B: Well…, a banana? A: Bingo! That's right! It's a banana! ○　My bag プレクイズ ・　自分で作ったクイズをペアで出し合う。 ・　前時で学習した常套表現を使い、クイズを出し合う。 ○　中間指導 ・　事前に机間指導を行い、常套表現の活用において、相手への配慮や工夫が見られた児童を選ぶ。 ○　My bag クイズ ・　中間指導から得たことを意識して、児童同士で問題を出し合う。	・　クイズの前に、常套表現を振り返り、常套表現を活用するとよりよいやり取りに近付けることを確認する。 ・　クイズの流れを黒板に掲示して、言語材料を確実に活用できるようにする。 ・　どのような点が優れていたのかを明らかにし、それが後半で取り入れられるようにする。 ・　机間指導を行い、振り返りで得られた気付きが十分に取り入れられるよう、教師による支援を行う。	ウ 相手に伝わるように工夫して、クイズを出したり答えたりしようとしている。 (行動観察) イ 相手に伝わるように工夫して、クイズを出したり答えたりし合っている。 (行動観察、ワークシート)
まとめ 5分	○　Reflection ・　振り返りをワークシートで提出する。	・　児童の振り返りの中で、本時のめあてに沿ったものを共有し、全体での学びを深める。	

⑶　板書計画

会話の間に入れる表現を意識しながら、クイズを出したり答えたりしよう。

間に入れる言葉の例

あいさつ
Song
Goal
クイズタイム①
クイズタイム②
振り返り

クイズの
やり取りの例

⑷　授業観察の視点

ア　相手意識をもち、場面に合わせた常套表現を考えながら使用できるような仕掛けを多く取り入れ、児童の「主体的な」学びを進めることができたか。

イ　児童同士のやり取りを全体で共有したり、教師による中間指導を行ったりすることで、より良いやり取りを目指せるようにすることができたか。また、授業の最後に児童が学んだことを考えたり発表したりする振り返りを行うことで、学級全体での学びの交流を促し、「対話的な学び」を推進することができたか。

ウ　自分のやり取りを更によくしていくために、やり取りを通して、場面に合わせた常套表現を理解し活用できるようにすることで、「深い学び」につなげることができたか。